

# Via Latina 22



2015年2月  
240号

## 総本部よりのお知らせーマリア会 チリでの初誓願



**Bros. Francisco M. and Daniel O.**

12月12日グアダルペの聖母祭に、2名のマリアニスト学校の同窓生、Daniel OrellanaとFrancisco Muñozがマリア会の初誓願を立てました。誓願式はコルデイレラの聖マリア高校にて執り行われました。これはマリア会にとってのお祝いだけではなく、同じくアリアンス・マリアルにとっても慶事でした。というのは、同じ機会にGladys Garrote女史が終生誓願を立てたからです。

José Maria Arnaiz師が誓願式を執り行い、このためにアリアンス・マリアルのChristine Barbaux会長がフランスから来られ式に列席されました。これはチリの全マリアニスト家族と3名の誓願者のご家族にとって大切なお祝いでした。また、この召命が生まれたコルデイレラのリナレス学院とサンタマリア高校にとっても同様に喜ばしいことでした。

## 東アフリカでの初誓願

2015年1月25日、東アフリカ地区はナイロビでのシャミナード記念日にJohn Kamau Mwaura士の初誓願を祝いました。

マリア会地区長のGabriel Kirangah 師がミサ聖祭を執り行い、誓願を受け入れました。副地区長のErick Otiende士が説教を行いました。修練長のJomo Maria Mwaura師が誓願候補者を呼び上げました。Mukuru Kwa Njengaのナザレ聖母小学校のFaustinoグループの子供たちが入堂のダンスをリードし、聖書を運び入れました。ナイロビのマリア会員、ジョン士の家族、信徒マリアニスト共同体のメンバー、そして大勢の修道者と友人たちがマリア会修練院での誓願式に参列しました。ナイロビで勉学中のトーゴからのマリア会のブラザーたちは、ケーキカットや恒例となっている新誓願者を持ち上げ、修練院の中庭を一週するためのお祝いの音楽演奏を行いました。



**Fr. Jomo Mwaura, SM, Novice Director;**  
**Fr. Gabriel Kirangah, SM, Regional Superior;**  
**Bro. Erick Otiende, SM, Assistant Regional Superior;**  
**Bro. John Mwaura, SM, newly professed;**  
**Bro. Dingiswayo Soko, SM, Marianist accompaniment**  
**during the profession.**

## インド従属地区での終生誓願

1月2日、地区集会の終了後に、3名の兄弟たち、Balaswamy A.、George Hans、Peter Paul K. がマリア会の終生誓願を宣立しました。誓願式のミサはベンガルール(旧バンガロール)のDeepahalliにて3名の誓願者の家族と地区のメンバー列席のもと喜びの行事として行われました。

Jack McGrath 師が誓願式を執り行いました。Augustus Surin 士と Marty Solma 師が誓願を受け入れました。Saragossa プログラムで3名を指導した Ignase Arulappen 師はそのホメリアで3名の終生誓願者と参列者に説教しました。Nirmal Deep 共同体(修練院)が音楽と式入堂の踊りを見事に準備していました。ミサの後、祝いの食事が供されましたが、これは学生修道者と志願者の両方の助けを得て用意されたものでした。この式典の準備と執行に協力された全ての皆さんに心から感謝します。



**Bro. Balaswamy A., Bro. Augustus Surin (District Superior), Bro. Peter Paul K. and Bro. George Hans.**

## インドのマリア会従属地区集会



**The new Council: Bro. Arokia Doss Ambrose, Councilor; Bro. Paulus Lakra, Asst. for Temporalities; Fr. Varghese Manooparampil, Asst. for Religious Life; Bro. Augustus Surin, District Superior; Fr. Sudhir Kujur, Asst. District Superior; Fr. Bhaskar Galleli, Asst. for Education; and Bro. Marianus Bilung, Councilor.**

聖フランシスコ・サレジオ宣教会の自分が所属する管区の副管区長です。

召命、養成、個人の霊的刷新、共同体生活の分野での地区への勧告の準備、信徒マリアニスト共同体、正規の教育、社会発展と非正規の教育、財政の持続可能性の促進のほか、新年の前夜には“一致、兄弟愛、和解”をテーマとする年度末の特別な祈りの時間がありました。1月1日、神の母聖マリアの祝日に、新しい従属地区評議員会の就任式がが荘厳に行われました。

2014年12月28日から2015年1月2日にかけて、インドのマリア会第10回年次集会が開かれ、130名を超える会員が集まりました。それには14名の志願者と18名の修練者が含まれています。私たちは14の共同体の院長一人ひとりからの報告、各々の共同体のビデオ情報、そして20以上もの宣教活動現場から報告書を得る事が出来ました。更に東アフリカ地区の学生修道院院長の Erick Otiende 士からの「霊的生活と私たちの使命」についての講話、また、聖フランシスコ・サレジオ宣教会の Emmanuel Uppamthadattill 師による「マリアニストカリスマに照らしたインドの教会状況」についての講話もありました。彼は元神学部部长であり、今は



## ローマ、マリア会総本部での助祭叙階式



1月10日、Daniel Odero Osino (Kenya), Gautier Somé (Burkina Faso), Robert Graig Jones (USA), Javier Sanz Sendra (Spain), の4名が助祭に任じられました。叙階式はイエズス会員で教皇庁の教理省の秘書のLuis Ladaria大司教が執り行いました。神学生が準備したこの叙階式の招待状には、イエス・キリストの顔がその言葉と共に載せられていました。“わたしはあなたがたの中で、いわば給

仕する者である。(ルカ22・27)

Ladaria大司教は説教の中でこのキリストの言葉を強調し、生涯を通してこの言葉が中心となるよう要請されました。Daniel, Gautier, Bob, Javierと共に生きる人たちが、この4名の助祭は奉仕する者として自分たちの間に一緒に居る、と言えますように：“ある人についてこれ以上どんなことが言えるでしょうか？”大司教は力強く感情を込めてこの言葉を繰り返しました。“ある人についてこれ以上どんなことが言えるでしょうか？”

“助祭、奉仕者、役務者”という言葉は全て同じことを意味します。助祭職は、通過すべき単なるステップではなく、むしろ、その人の生活を仕える者であるキリストとますます一体化させることによって、その生活を統合するステップです。イエスのように、助祭は仕えられるためではなく仕えるために召されたのです。私たちの中であって仕える者であるキリストの見えるしるしであるこれら兄弟たちのために御父に感謝しましょう。



**Bros. Gautier Somé and Javier Sanz, the Archbishop, Mons. Luis Ladaria, and Bros. Daniel Odero and Bob Jones.**

## USA 副管区長、再任



総長評議員会は、マリア会総長Manuel Cortés師がJoseph Kamis士を3年任期の二期目の副管区長に全員一致で再任したことを発表します。Joseph Kamis士はこの任命を丁重に受け入れ、再度、兄弟的リーダーシップを発揮して寛大に奉仕する事を受諾しました。Joseph士はMartin Solma師と共に数週間掛けて新しい管区長評議員会を形成する作業に取りかかります。この評議員会の奉仕に呼ばれた人々が喜んで応え、また、管区の全会員が彼らを十分にサポートしてくれるよう、私たちは希望します。彼らは、現状をリードし、管区が希望と決断を持ってこれからの課題に直面するチームづくりを始めます。主が管区の全てのメンバーを祝福し、聖マリアが常に皆さんを導いてくださるよう祈ります。

## ブラジルにおけるマリアニスト40周年記念



1月10日、ガリアのサン・ホセ小教区で、ブラジルにおけるマリアニスト40周年記念の感謝祭を行いました。1975年1月24日金曜日、3名のマリア会員がリオデジャネイロに向けてマドリッド空港を飛び立ちました。詩人で司祭のPaco師、物理と数学の教師Manolo士、技術者で司祭のCarlos師の3名です。

Paco師が次のように書いています。

“私たちはマドリッドを3時間遅れて出発しました。これはブラジル到着が同じく3時間遅れだと思っていました。実際その通り、リオに21時45分に到着しました。息苦しい暑さでした。1時間半後私たちはサン・パウロに向け出発し、45分で到着しました。飛行機を降りたとき、Don Candido Padin

司教(OSB)と私たちの目的地のガリアの人々が待っていました。ガリアまでの道のりは夜中5時間の長い感動的なものでした。私たちは到着しました。夜が明けかけていました。それは象徴的で美しい偶然でした。”1年半後、更に5名のマリア会員が当地に到着しました。

この40年間に、マリアニスト家族は大きく成長しました：カンピーナスでは、シスターたちが霊性センターを運営しています：私たちはバウルとマリリアで、一つの教区と二つの非正規の教育センターを担当しており、信徒マリアニスト共同体は三つの市に2つずつ（計6つ）あります。マリアニストのカリスマはブラジル人の心の信仰に移植され、成長してきています。

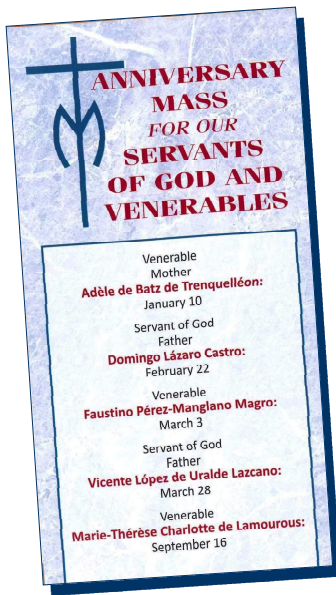
## 福者シャミナード師の列聖調査に関する医学評議会の裁定



列聖調査のための列聖省の医学評議会はこの1月15日に Rachel Baumgartner Lozanoの病気治癒が福者シャミナード師の取り成しによるものかどうか検討会を行いました。プロセスに於いてこれは重要なステップでした。なぜなら、評議会は、議題となっている病気治癒が医学的には説明できない形で起ったことを示す必要がありました。この種の病気についての専門家で構成された評議会は、膨大な医学資料とRachel担当の医学チームの証言を検証しました。長時間の議論の後、評議会の医師団は、病気治癒が医学の助けなしで生じた、と断言は出来ない旨、裁定を全員一致で出しました。このため、彼らはこのケースを次の段階へと進めることに同意しませんでした。

私たちはRachelの非常に重篤な再発性癌からの治癒を引き続きよろこんでいます。そして彼女の信仰と、シャミナード師への祈りにおいて彼女に付き添った人々の信仰によって啓発されています。とはいえ、福者シャミナード師の列聖運動のためには、このケースを前進させるのに必要とされる十分な証拠がない、といことに私たちはがっかりしています。しかし、引き続き私たちの創立者の取り次ぎをお願いし、列聖に到るよう祈りましょう。





## マリアニスト列聖運動パンフレットの配布

12月のVia Latina 22で発表したように、総長評議員会は奉献生活年の祝いの一環として、これらパンフレットを皆様に提供します。評議員会は、神の僕あるいは尊者と宣言されたマリアニスト家族メンバーの取り次ぎを通しての祈り、を奨励したいと思います。マリア会行政単位の全てのメンバーはそのコピーを受け取ると思います。これら神の僕と尊者たちの記念祭を祝うことによって、マリアニスト家族の全てのメンバーの心の中に彼らの列聖運動が保持されるよう、私たちは希望します。彼らが私たちのために取り成してくださるよう！

## マリアニスト家族世界評議会 2015年

マリアニスト家族世界評議会は社会正義についての情報誌“金曜日のマグニフィカト”を次の言語でも提供出来るようになりました：ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、韓国語、日本語。



### 総本部通信 最近の送信

- **訃報:** no 1-3
- **1月14日:** 全ての行政単位責任者への第2回目の催促状
- **1月15日:** マリアニスト列聖運動パンフレットの全ての行政単位への送付とその共同体での配布

### 総本部日程

- **2月5-22:** 全総長評議員のコロンビア、エクアドル訪問
- **2月22-3月8:** 全総長評議員のペルー訪問

